

平成19年度

事業報告書

財団法人

日本高等学校野球連盟

◇ 事業の状況

1. 高等学校野球の振興、指導および加盟団体に対する監督

(1) 年度内に全国理事会を6回、また毎月定例として常任理事会を開催（12月を除く）して案件の審議、決定を行いました。更に各種専門委員会を必要に応じて随時開催、諸問題の審議、検討を行い高等学校野球の健全な育成、発達に努めました。

また年度内各都道府県高等学校野球連盟会長会議、同理事長会議をそれぞれ各1回開催し、また都道府県高等学校野球連盟会長と同理事長合同の臨時会議を招集し、特待生問題の対応方法と加盟校との関係や伝達方法について、徹底を計りました。

(2) 高等学校野球の健全化促進のため、本年度も『大会参加者資格規定』を定め、各都道府県連盟に通達し、加盟校への指導を要請しました。

2. 高等学校野球の調査、研究

(1) 年度内に開催された第79回選抜高等学校野球大会ならびに第89回全国高等学校野球選手権大会に参加した出場校に、大会会期中の宿舎生活実態と参加経費、寄付金募集の状況と過不足金の処理方法などの内容についてアンケート調査しました。両大会運営委員会ならびに理事会においてこの集計を報告、今後の指導方法と対策を検討しました。

(2) 5月末現在を基準とした硬式、軟式両加盟校の部員数調査を今年も実施しました。集計結果は硬式が168,501人(2,187人増)、軟式が11,310人(214人減)。硬式の部では、10年連続前年比増で過去最高を記録。また、加盟校数は過去最高を記録した昨年から50校減の4,192校で（過去6番目）となった。

3. 高等学校野球大会の開催および協力

(1) 第79回選抜高等学校野球大会

毎日新聞社と共催で3月23日から4月3日までの12日間、阪神甲子園球場で開催、1月26日に開かれた選考委員会で選考された32校が参加し無事盛況のうちに終了、常葉菊川高等学校（静岡）が初優勝を果たしました。準優勝は初出場の大垣日大高等学校（岐阜）。

(2) 第89回全国高等学校野球選手権大会

朝日新聞社と共催で8月8日から22日までの15日間、阪神甲子園球場で従来通り49校が出場して開催。2回戦の引き分け再試合や決勝戦の劇的な逆転満塁ホームランなどで、佐賀北高等学校（佐賀）が初優勝を果たしました。準優勝は広陵高等学校（広島）。

(3) 第52回全国高等学校軟式野球選手権大会

全日本軟式野球連盟、朝日新聞社、毎日新聞社の後援を得て8月25日から29日まで5日間、兵庫県下の明石公園野球場と高砂市野球場で開催しました。

参加校は全国16地区から各1校ずつ計16校。両会場で熱戦が繰り広げられ、初出場の新見高等学校（東中国・岡山）が初優勝を果たした。準優勝は、富山商業高等学校（北信越・富山）。

(4) 第62回国民体育大会・高等学校野球競技

夏季・秋季大会が一本化されて2年目の大会を秋田県で開催。硬式の部は、10月6日からこまちスタジアム（秋田県立野球場）と八橋運動公園野球場で12校が参加して4日間開催。優勝は今治西高等学校（愛媛）の初優勝、準優勝は広陵高等学校（広島）。

軟式の部は、10月5日から能代球場で10校が参加して4日間開催。最終日は雨天のため決勝は行わず、茗溪学園高等学校（茨城）と羽黒高等学校（山形）の両校が優勝とした。

(5) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国9地区で4月下旬から6月上旬にかけて開催、無事終了しました。

(6) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国10地区で10月上旬から11月上旬にかけて開催、無事終了しました。

(7) 第38回明治神宮野球大会・高等学校の部

11月10日から14日まで5日間（1日会期延長）、明治神宮野球場で開催。高等学校の部は、東京都のほか9地区から各1校が参加し、常葉菊川高等学校（静岡）が初優勝を飾りました。

[海外派遣ならびに招待]

次の通り年度内に海外招待ならびに国際大会を行い、野球を通じて国際親善の実を挙げました。

(1) 日伯親善・ブラジル選抜チーム招待

5月9日から20日まで12日間、ブラジル選抜高校チーム（役員8人、選手18人）が来日。群馬、茨城、福島、岐阜、三重、東京の各府県選抜チームと親善試合を行い、結果はブラジル選抜高校チームの3勝5敗でした。

(2) 日米親善・全日本選抜チーム米国派遣

8月30日から9月7日まで9日間、全日本選抜高校チーム（役員10人、選手18人）を米国・コンプトン市に派遣。アーバンユースアカデミー選抜チームと親善試合を行い、結果は全日本選抜高校チームの2勝1敗でした。

4. スポーツ医科学の調査、研究

(1) 年度内開かれた第79回選抜大会と第89回選手権大会に参加する投手全員を

対象に、大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害の予防に努めました。検査結果の概要は次の通り。

		(79回選抜)	(89回選手権)
検査受診者数		89人	159人
		肩・肘	肩・肘
X線所見・肘（剥離骨折）		— 11人	— 23人
同 ・肘（遊離体）		— 1人	— 2人
		肩・肘	肩・肘
医師の診断	軽度の炎症	8人 19人	9人 21人
	中程度の炎症	— —	2人 1人
	重い炎症	— —	— 1人

以上の結果、大会規定による投球禁止適用者はいなかった。

5. 一般アマチュアスポーツ団体との協力、提携

年度内に次の団体と協議、懇談会を開催、アマチュアスポーツの振興、発展に努めました。

(1) 全国高等学校体育連盟

9月20日と2月25日の2回、連絡会を全国高体連会議室で開催。特待生問題に関する意見交換と、中学校との接触ルールのあり方について協議した。今後年度内2回を目途に定期連絡会を開催することとした。

(2) 日本中学校体育連盟ならびに軟式野球競技部会

11月10日、日本中学校体育連盟軟式野球競技部会9ブロック代表者と当連盟九地区理事が明治神宮球場で懇談会を開催。中学・少年野球関連規定の確認、特待生問題の経過説明等を行った。また2月25日は全国高等学校体育連盟と合同で、日本中学校体育連盟幹部と特待生問題ならびに接触ルールについて意見交換を図った。

(3) アマチュア3団体連絡会

日本野球連盟、日本学生野球協会（全日本大学野球連盟）と当連盟で定期連絡会を開催。年度内、2月14日、3月3日の2回開き、プロ・アマ関係問題の協議とオリンピックの野球競技復活について話し合った。また、3月19日、プロ野球側とも協議を行った。

6. 高等学校野球の指導者、審判等の講習会開催

(1) 審判講習会

当連盟主催の全国審判講習会を4月29、30日の両日、実技は阪神甲子園球場、また座学は中沢佐伯記念野球会館で実施。各都道府県から参加した受講者を対象にルール研修や実技指導を行いました。

また、北海道をはじめ9地区の地区別審判講習会に講師を派遣、地方審判の技術向上に努めました。

さらに、中学・少年野球育成事業の一環として、少年野球合同審判講習会を2月2日、3日に開催、受講者80人を対象に審判技術の統一と向上を図った。

(2) 新任理事長研修会

第16回新任理事長研修会を開催。2月7日、8日の2日間実施しました。研修会では学生野球憲章をはじめ、各種の規定や通達の解説、また選抜、選手権大会の出場校に対する参加上の要領等を説明、本年度は前年度就任の理事長6名が参加しました。

7. その他 法人の目的達成に必要な事項

(1) 公益法人制度改革に伴う会計処理講習会の開催

平成20年度にも移行が始まる公益法人制度改革に伴い、現行の法人税非課税優遇措置を継続、維持するため、同制度を適用した会計システムを導入する必要があるとあり、財務担当の田中元夫、杉中豊両常任理事が講師となり、都道府県連盟理事長および会計担当者を対象に、下記のとおり5回の講習会を実施した。44連盟から100名が受講した。

- ① 6月7日(木)〈大阪〉9連盟 18名
- ② 8日(金)〈大阪〉9連盟 21名
- ③ 11日(月)〈福岡〉8連盟 21名
- ④ 13日(水)〈東京〉11連盟 23名
- ⑤ 14日(金)〈東京〉7連盟 17名